



平成 27 年度第 2 回



多文化共生を進める団体交流会



名古屋市 City of Nagoya



交流会の概要

平成27年度第2回

多文化共生を進める団体交流会

参加
無料

～多文化共生都市「なごや」の未来を語り合う～

名古屋で活動する団体の皆さまや行政の担当者等が、普段から顔の見える関係をつくり、多文化共生のために一緒に力を合わせられるようになりたい！ そんな思いから交流会を企画しました。「多文化共生都市『なごや』の未来」をテーマにワークショップを通して交流しましょう！ みなさんお気軽にご参加ください。



プログラム

13:30 名古屋市の取組紹介

13:40 【先進事例発表】オーストラリアに学ぶ多文化共生施策

【報告者】多文化共生リソースセンター東海：神田すみれさん
名古屋市長室国際交流課：若山登弥、名東区保険年金課：伊藤結花
自治体国際化協会の「オーストラリア多文化主義政策交流プログラム」の参加者が、実際に見聞したオーストラリアの事例を報告します。

14:40 ワールドカフェ

「多文化共生都市『なごや』の未来」をテーマに、ワールドカフェ形式で話し合います。
各国のお菓子などをいただきながら、リラックスした雰囲気でも話し合います。持ち寄り歓迎です！

16:00 閉会

日時：平成28年1月31日（日）

13:30～16:00（13:00～受付）

会場：名古屋国際センター別棟ホール
（名古屋市中村区那古野一丁目47番1号）

定員：100名

参加費：無料

申込方法：裏面の申込み用紙をメール、FAXにてお送りください。



お問い合わせ先：名古屋市長室国際交流課 鈴木、横山

TEL:052-972-3062 FAX:052-962-7134 Email:a3061@shicho.city.nagoya.lg.jp

名古屋市長室国際交流課

名古屋市長室国際交流課

名古屋市長室国際交流課

目的・概要

市内を中心に活動する多文化共生を推進する団体や行政の職員が、互いに顔の見える関係をつくり、災害などの非常時はもちろん、平常時から連携、協力していける関係づくりを目的とした交流会を開催する。

日時：平成28年1月31日（日）13:30～16:30

会場：名古屋国際センター別棟ホール

参加費：無料

プログラム

- ①【先進事例発表】オーストラリアに学ぶ多文化共生施策
- ②ワークショップ「ワールドカフェ」
テーマ：どう創る？多文化共生都市「なごや」の未来

21団体・42名の方々にご参加いただきました！



【先進事例発表】オーストラリアに学ぶ多文化共生施策



【報告者】

神田すみれさん(多文化共生リソースセンター東海)
 若山寮弥(名古屋市市長室国際交流課)
 伊藤結花(名東区区民福祉部保険年金課)

○オーストラリアに研修で行かれた3名が、先進的な多文化共生の現場で感じたこと、日本との違いなどについて報告していただきました。

○詳しくは、「オーストラリアに学ぶ多文化共生施策」報告資料をご覧ください。



オーストラリアに学ぶ多文化共生施策

多文化共生リソースセンター東海
 神田すみれ
 名東区役所保険年金課
 伊藤結花
 名古屋市市長室国際交流課
 若山寮弥



情報を伝えるための様々な工夫

アイコンを使った情報提供ツール

Taking Care of our Seniors (高齢者を大切にしましょう)

Let's take care of seniors in our community.
 Be aware of these signs of social isolation:

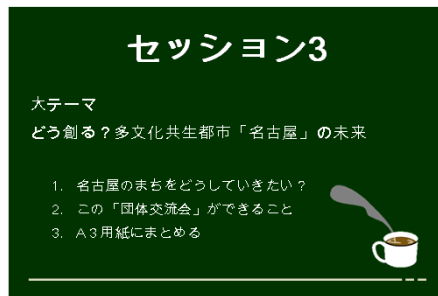
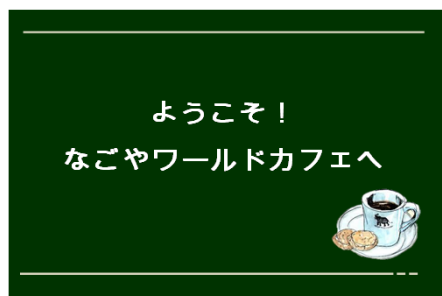


ワークショップ「ワールドカフェ」

○「どう創る？多文化共生都市『なごや』の未来」を大テーマに、オーストラリアの事例報告について感じたことや、これからの名古屋がすべきこと、「多文化共生を進める団体交流会」の今後のあり方などについて話し合いました。

○1人でも多くの方と交流するために、また効果的な話し合いを行うために、メンバーを交代し、3回の話し合いを行いました。

○外国のお菓子を食べながら、リラックスした雰囲気で行われました。



ワークショップ「ワールドカフェ」 主な意見

名古屋のまちをどうしていきたいか



- ・外国人に対する日本語教育の強化が必要
→有能な外国人は英語圏の国に行ってしまう。それは「日本語の壁」があるからである。
- ・実際に外国人が助かっている経験談等を発信することで、多文化共生を知るきっかけづくりをする。
- ・サミットやオリンピックなどをきっかけに、外国人と関わる機会を増やし、異文化理解を進めることで多文化共生を進める。
- ・外国人を雇用している企業にも多文化共生について知ってもらう必要がある。

多文化共生を進める団体交流会の今後のあり方について



- ・立場を超えていろいろな人(外国人市民、行政職員、NPO団体、教育者、自治会など)と建設的な意見交換を行い、意識改革を進めることが重要。
- ・行政職員に自分たちの活動を知ってもらうための交流会であってほしい。
- ・意見を出して終わりではなく、どのように多文化共生プランに反映したか結果を共有する場になると良い。
- ・交流会について企画段階から関わっていくことが必要。



アンケート結果

1 本日の交流会に参加した感想

- ①大変よかった.....63%
- ②まあまあよかった.....37%
- ③あまりよくなかった..... 0%
- ④よくなかった..... 0%

2 次回も参加したいですか？

- ①参加したい.....92%
- ②参加しない..... 8%



3 感想・国際交流課へのメッセージ(主な意見)

- ・もっと多くの方が、この交流会に参加してほしいと思いました。そうすれば意識も変わると思います。
- ・国際センターで開催すると、メンバーが固定させるかもしれません。各区でこういう交流会ができる
とさらに良いとですね。
- ・我々NPOも主体的にこのような交流会をしないといけないと実感しました。
- ・この交流会は、多文化共生の地域づくりに向けて重要・大切な場だと思っています。

